

Concert Reviews

オーケストラ

モーツァルト室内管弦楽団 (第115回)

モーツァルト室内管弦楽団が、創立35周年を記念する第115回定期演奏会の演目として、上演時間3時間以上にも及ぶオペラ・セリア《イドメネオ》を、演奏会形式ながら、関西の精鋭歌手を集めてオリジナル・ノーカットで取り上げた。

上演は素晴らしい成果を収めたが、成功の大きな鍵を握ったのが題名役を担った畑儀文の好唱。クレタの王イドメネオの凜とした気品や厳しさが随所に漂うだけでなく、その表現は隅々まで練り上げられた濃やかさと陰影に溢れ、王子を生贄に捧げねばならなくなった悩める父の姿をも見事に描き出して感動的。加えて王子イダマンテを演じた野間直子も、

イダマンテを慕う王女イリアを歌った石橋栄実も実力を遺憾なく発揮。他のキャストたちも役柄の質を十分に引き出す好演を展開し、モーツァルトの音楽にしか聴けないすがすがしさや凜々しさを、心行くまで堪能させてくれた。門良一指揮するモーツァルト室内管と記念合唱団は、場

面によつては、さらに引き締まった響きや緊張感に富む表現が、また古楽奏法に対する意識が欲しいところもなくはないが、全体としては長丁場を密度濃く仕上げ、門もこの大曲を手際よくまとめ上げた。1月9日
いずみホール

● 中村孝義